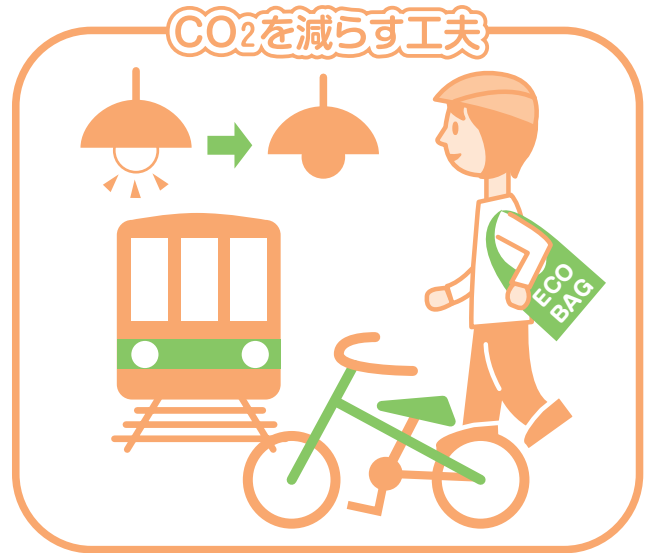


CO₂に価格がつく時代がやってきた

暮らしの中の様々な活動から排出されるCO₂などの温室効果ガス排出量を認識し、省エネ活動などをしたうえでなお発生してしまうCO₂を、クリーンエネルギー事業への支援や、植林の推進などによって相殺する考え方を「カーボンオフセット」と呼びます。英国をはじめ、日本でもカーボンオフセットはす

でたくさんの企業や団体が取り入れていて、わたしたち区民が気軽に参加する機会も増えてきました。暮らしの中でエネルギーを使用するかわり、CO₂排出量をゼロにすることはできません。これからの環境をよりよいものにするために、カーボンオフセットという新しい考え方を取り入れてみませんか。

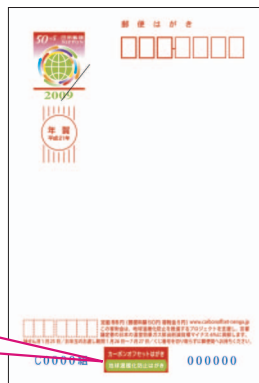


下記4つの例は、いずれも京都メカニズムのクレジットを活用したオフセットであり、京都議定書で定められたマイナス6%に貢献するものです。

身近でできるカーボンオフセットの例

カーボンオフセット年賀郵便事業株式会社

日本の温室効果ガス削減目標マイナス6%への貢献を目的とした寄附金（5円）付き年賀はがき。郵便事業(株)も同額を寄附し、はがき購入者と一体となって行うオフセット。



カーボンオフセットはがき
地球温暖化防止はがき

「グリーンとしま」を再生するキックオフイベント 豊島区

イベント周知用ちらしの作成や会場のエネルギー利用により発生したCO₂について、イベント主催者がCO₂排出権を活用して行うオフセット。



CO₂ CARBON OFFSET™

「ビサルノ」カーボンオフセット付ワイシャツ 丸井グループ

洗濯機で丸洗い可とすることで、クリーニングを必要とする同社他の商品に比べ、CO₂排出量を約40%低減（同社調べ）するとともにオフセットもつけた商品。



月刊『ソトコト』CO₂排出権付定期購読 株式会社 木楽舎

年間365kgのCO₂削減にチャレンジする定期購読者の意思を反映し、『ソトコト』が同量のCO₂排出権を購入。『ソトコト』と読者が一体となって行うオフセット。

